

# 地図帳と価値ある出会いを ～児童が自ら切り拓く、地図帳活用の可能性～

●富山県入善町立桃李小学校 教諭 岩山直樹



## ① はじめに

3年生になった児童は、新しい教科書をもらいます。「社会科だ！理科だ！」と、教科書との出会いを通して、新たな学びに心を踊らせているようが見られます。この教科書の中に「地図帳」が含まれています。地図帳と出会った児童は、すぐさまページをめくり、自分が興味関心のある事柄を調べ始めるでしょう。そのようなとき、私たち教員はついつい次のような言葉がけをしていませんか。

### 「地図帳は社会科で使うので、机やファイルボックスにしまっておきましょう」

何気ない言葉ですが、このような言葉がけによって、児童の地図を活用する力を教師が狭めてしまう可能性があります。学習指導要領（解説）第4章2「内容の取扱いについての配慮事項」で次のような解説がされています。

第3学年から給与される地図帳は、地図を効果的に活用することにより、位置や空間的な広がりに着目して社会的事象を捉える見方・考え方を養うことができる教材である。地図帳については、日常の指導の中で、折に触れて、地図の見方や地図帳の索引の引き方、統計資料の活用の仕方などを指導し、地図帳を自由自在に活用できる知識や技能を身に付けるようにすることが大切である。また、地図帳を日常的に活用し、地図への親しみをもち、問題解決のための教材として効果的に活用する技能や意欲を育てるようにする。（波線部は筆者）

確かに、社会科の学習では位置や空間的な広がりに着目して社会的事象を捉える見方・考え方を養うために地図帳を活用するとあります。しかし、社会科「(だけ)で」活用とは書かれていません。そうではなく、「日常的に」活用とされています。この「日常的に」とは、社会科を含むすべての教科等の学習や家庭などにおける活用を表しています。つまり、さまざまな学習場面で地図帳を効果的に活用することで、地図を活用する力を育むことが大切とされているのです。

ゆえに、先の言葉がけを正すなら次のような言葉がけはどうでしょうか。

### 「地図帳はすべての教科等で使うので、いつでも使えるよう机の中にしまっておきましょう」

このような言葉がけにすることで、きっと児童は、「**地図帳ってどの勉強でも使えるんだ。どんなふうに見えるか楽しみだ**」と、地図帳への興味関心を一層高めるでしょう。

本稿では、児童が自ら日常的に地図帳を使うようになるための、具体例を紹介していきます。

## ② 「**地図帳さん**」となかよくなる

### (1) 地図帳さんの自己紹介

社会科等の学習の時間を活用して、地図帳の活用に関するオリエンテーションの時間を設けます。課題は、「**地図帳さん**となかよくなる」です。まず、地図帳本体を児童に提示します。そして、**地図帳さん**の自己紹介と題して、地図帳（令和6年度版『楽しく学ぶ 小学生の地図帳』）p.7～8「地図の世界へようこそ」とp.9～10「地図ってなん



図1 QRコンテンツ「地図ってなんだろう」

「地図ってなんだろう」を活用しながら、地図の基本を確認していきます。ここでは地図帳の流れに沿って展開していきますが、このときQRコンテンツの動画を活用してみたいかがでしょうか。

教師：教師端末で、地図帳p.9上のQRコードを読み取り（図1 ①）、適宜説明しながら、三つ目の動画の終わりのところにきたら一時停止する（図1 ②）。

児童：「この写真では、ごちゃごちゃしていて、どこに何があるかわからない」

教師：「どうしたらいいかな」

児童：「建物の名前や、どこが道路かわかればいい」

教師：「ここから、どのようにして地図ができてくるのでしょうか。続きを見てみましょう」

教師：教師端末で、続きの動画を流す（図1 ③）。

動画を視聴したあとで、地図帳p.9～10を開くよう指示します。そして、p.9の写真とp.10の地図を実際に比較することで「地図は土地のようすをわかりやすく表したもの」の「土地のようすをわかりやすく」とはどういうことか、児童が具体的に理解できるようにします。

このように、QRコードコンテンツと地図帳を関連付けて活用することで、児童の理解を確かなものにすることができます。

## （2）地図帳さんを使う教科はいくつあるのか

地図の基本について理解した児童は、**地図帳さん**の地図のページ（地図帳p.21～）に興味関心を高めていることでしょう。このような姿が見られたところで、次のように展開します。

教師：「地図帳さんは、土地のようすをわかりや

くく表したものなんだね」

教師：「この地図帳さんを、みなさんはどの教科で使っていますか」

児童：「先生、当たり前すぎない!？」「簡単すぎだよ!」

## 「地図帳さんは〇〇科で使う」

教室に児童のざわめきが広がります。ここで、〇〇に当てはまる教科について、ICT機器にある共有ノート等を活用し、児童が互いの考えをデータで共有できるようにします。全員が記入し終わったところで、全員の考えを一通り確認します。

「A児：社会」「B児：社会」「C児：社会」  
「D児：国語」「E児：社会」「F児：社会」  
「G児：社会」「H児：外国語」「I児：理科」

すると、社会科以外の他教科を考える児童がいるのです。「社会科」と考えていた児童、そして他教科と考えていた児童の考えにズレが生まれ、児童は自然と友達に関わりを求め始めます。

A児：Dさん、どうして国語なの？

D児：だって、地図帳には知らない場所（地名）の名前が漢字で書いてあるでしょ。習っていない漢字もたくさんあるし、その漢字を覚えれば、国語の勉強にもなるんだよ。

B児：Hさん、どうして外国語なの？

H児：だって、地図帳p.1～3には、世界地図が



図2 QRコンテンツ「世界のあいさつ」

QRコンテンツはこちらから



あって、その下に外国のあいさつがかいてある。QRコードもあるよ（図2）。そのあいさつを調べることで、外国語の勉強になると思うんだ。

F児：Iさん、どうして理科なの？

I児：だって、地図帳には、動物や植物の絵（絵記号）もかかっているんだよ（図3）。生き物について勉強するのは理科だと思うから、理科で使えそうと思ったんだ。

\*児童の実態によっては、すべてが「社会科」となる場合もちろんあります。その場合は、教師が「社会科でしか、地図帳さんは使われないんだね」と、児童をゆさぶってみることで、上記のような展開があり得るでしょう。

このような関わりを通して、児童は、「だったら、〇〇科では□□なこともできそうじゃないかな」と、地図帳の活用について自ら可能性を切り拓き意欲的に活用例を考え始めます。そこで、3年生で学習する教科等を確認し、教科ごとの活用例を考える場を設けます。このとき、報告会など、活用例を異学年や家族といった他者に発信するような場を設けると、児童は見通しをもって学習活動に取り組むようになります。表1は、児童が考えた活用例です。

### ③ おわりに

教師と同様に、児童も「地図帳は社会科で使うもの」と、活用場面をわかった、知った気になっ



図3 地図帳は〇〇で使う ほたるいか・こきりこの絵記号  
令和6年度版『楽しく学ぶ小学生の地図帳』p.57 富山県の部分  
(85%縮小、丸の中は120%拡大)

ています。しかし、この「わかっている・知っている」という思い込みが最高の教材になるのです。「地図帳はどの教科でも自由に使っていいんだ！」と、地図帳活用の可能性を自ら見いだした児童は、「遊びながら」「楽しみながら」地図帳を活用していきます。この過程を通してこそ、確かな地図活用能力が育まれていくのです。児童と地図帳との出会いを価値あるものにしてみませんか？

表1 児童が考えた地図帳の活用例

教科等	活用例を考える児童のようす	児童が考えた活用例(すべて地図帳活用)
国語科	知らない漢字(地名等)がたくさんあるよ。	漢字を学習するための地名クイズ
算数科	地図上の1cmは実際の○kmと書いてあるよ。	距離を計算するための問題
音楽科	音符マーク♪があるよ。(図3)	音楽の舞台になっている場所はどこでしょうクイズ
図画工作科	都道府県はいろいろな形をしているよ。	好きな都道府県を〇〇(紙、粘土、木材)で作ろう
外国語活動	「世界の国からこんにちは!」のQRコードがあるよ。	このあいさつはどここの国でしょうかクイズ